

唐丹文芸

「わちむわ」詠草

唐丹短歌会

大神楽御神楽集い笛太鼓遠き想い出引きずりて祭
それぞれの思い出抱き故郷へ馳せ参じ来る人々の祭

須具 美佐子

男の子らが町かけめぐるその昔星きらめきて七夕よいしよ!!
野牡丹の一日で散りゆく紫のその儂さを吾はいとしむ

川原 セイ

さア今日も孫の分にと綱を引く舅の背中に朝日かがやき
初孫に合わせて古屋の畳替えキナリの蚊帳に涼風が舞う

磯崎 彬

遠き日の船売りやりし逃げるごとかの対岸に浜薔薇咲けるや
若き日の思いで埋めある砂浜に浜昼顔の花と語らん

上野 ウタ子

稲穂ゆれ蛙コーラス月あかり佇み聞けばなほも巧みに
凝り観れば五分程キュウリみどり実のたくまし命ロマン舞ふ朝

中嶋 多喜子

庭の花咲くも散らふも夫と見し快気に向きて共に花見む
梅漬ける指よりたちし紫蘇の香に母の前垂れ握りしを恋ふ

環 あき

青田吹く風心地よきわが里よデイサービス終えて家路を急ぐ
春彼岸過ぎて又降るなごり雪ひと日に解けて流れ清しき

大津 秀子

米寿なる叔母に花束贈りたり碧き五月の風の香添えて
雨上がりの流れは早し側溝に注ぐ水音ひと際高く

高橋 昌子

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-2174番(盛岩寺)